

第8日

令和8年6月18日（木）

午後1時零分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、6番徳永秀俊議員の質問を許可します。6番徳永秀俊議員。

（6番徳永秀俊君登壇）

○6番（徳永秀俊君） 皆様、こんにちは。ただいま議長のお許しをいただきましたので、一般質問に先立ちまして、一言御挨拶をさせていただきます。6番議員の徳永秀俊でございます。今日は傍聴にたくさんの方が、恐らく私が議員になって初めて、一番多い傍聴の数だと思います。本当にありがとうございます。

まず、このたび市長選挙におきまして、市民の皆様の大きな期待を受け、新市長が誕生いたしました。中島市長、就任誠におめでとうございます。激しい選挙戦を経ての勝利は多くの市民の朝倉市をさらに前へ進めてほしい、そういった願いの表れであったと思います。私も一人の議員として、市長には市民の声に真摯に耳を傾けながら、市民に寄り添った市政運営を進めていただくことを期待しております。

そして、議会としても、是々非々の立場でしっかりと議論を行い、朝倉市発展のために力を尽くしてまいりたいと思います。

さて、九州北部も梅雨入りをし、本格的な雨の季節を迎えました。朝倉市は平成29年九州北部豪雨という大災害を経験をしております。あの日の記憶を風化させることなく、市民の生命と財産を守る防災・減災対策をさらに充実させていかなければなりません。特に近年は、線状降水帯の発生など、気象災害が激甚化しております。行政と地域、そして市民一人一人が連携をしながら、備えを万全にしていくことが重要であります。

また、世界に目を向けますと、原油価格や物流コストの高騰など、いわゆるナフサショックとも呼ばれる影響が続いております。建築資材や農業資材、日用品に至るまで幅広い分野で価格が上昇が続き、市民生活や地域経済に大きな影響を与えております。

私は工務店も経営しておりますが、現場に立つ中で、資材価格の高騰や人手不足の深刻さを日々実感しております。こうした時代だからこそ、地域経済を支え、中小企業や農業者、子育て世代、高齢者の暮らしを守る取組が求められております。

しかし、私は朝倉市の未来を決して悲観をしているわけではございません。朝倉市には豊かな自然があります。全国に誇る農業があります。歴史と文化があります。そして何より、人と人との温かいつながりがあります。人口減少や少子高齢化など多くの課題がありますが、若い世代が希望を持ち、子どもたちが夢を描き、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを進めることで、朝倉市にはまだまだ大きな可能性があるかと確信をしております。

私が政治活動の原点として大切にしている言葉があります。それは「大衆とともに」です。大衆の中に入る、大衆の声を聞き、大衆とともに悩み、大衆とともに行動する、

この姿勢を忘れることなく、市民の皆様の声を市政に届けるのが議員の使命であると考えております。これからも現場第一、市民第一の立場で、市民の皆様の声を市政に反映させるため全力で取り組んでまいります。

本日はそのような観点から質問をさせていただきますので、市長並びに執行部の皆様、前向きな御答弁をお願い申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

（6 番徳永秀俊君降壇）

○議長（小島清人君） 6 番徳永秀俊議員。

○6 番（徳永秀俊君） 市長就任後初めての本格的な所信表明を拝見いたしました。そして、一つの共通のテーマを私は感じました。それは若者です。若者が政治に関心を持つ、若者が朝倉に住み続ける、若者が子育てをする、若者が農業に挑戦をする、若者が将来に希望を持つ、本日はその視点から質問させていただきます。

市民の皆さんは、新市長がこれからどのような朝倉市を目指し、どのような改革を進めようとしているのか、大きな期待を見て見守っております。本日は対立ではなく、市民の皆様に分かりやすく市長の考えをお聞きする立場で質問させていただきたいと思っております。

まず最初に、SNSやAI時代における公正な選挙環境についてお伺いさせていただきます。

近年の選挙は、SNSや動画配信の影響力が急激に高まっております。一方で、誹謗中傷やフェイク情報、AIによる偽画像・偽動画も問題になっております。

市長は、今回の市長選挙において、従来の選挙手法だけではなく、SNSや動画配信などを積極的に活用されました。そういうことが特に若い世代や現役世代との接点を広げる一つの要因になったのではないかと私は感じております。市長御自身は今回の選挙や近頃の衆参の国政選挙を通して、SNSの持つ可能性や影響力、今後の課題をどう感じられましたでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） SNSはやはり大きな力があるというふうに、私自身の選挙戦を通じて思いました。アラブの春だったと思うんですけども、中東のほうで革命が起きたときに、あれはSNSが起点になったというふうに聞いております。それくらい、やはり世の中を大きく動かすツールになっているんだなということを感じております。

また、徳永議員がおっしゃいましたように、若い方はそれに非常に慣れ親しんでありまして、若者という視点でいきますと、私のような年配者に比べたら、若い方というのは経験も少ないですし、人脈とかもないでしょうし、それから、お金も多分一般的に持っていないでしょうから、そういう人たちが物事を動かしたり訴えたりするためには大きな力になるものですから、若い人たちはそれに親しんでいるのかなというふうに思っております。

ただ、この議会を通じまして、再三言われていますように、今回の市長選挙でいろいろな賛否がありました。そういった中で、まずは、やはりネットの情報というのは玉石混交だなど、そのところは全て正しい情報ではないということを感じないといけないなと思っています。

それと、もう一つ、私が個人的に感じていることなんですが、SNSとかネットというのは、人の心にダイレクトに入っていくといいますか、人の感情を揺さぶるもんなんだと。それは、なんか皆様の、議員の皆様の質問を聞いていると感じました。多分、アルゴリズムといいまして、そういうふうに組まれているんだと思います。私たちはその手のひら上に乗っているといいますか。ですから、そういったSNSというのは感情を揺さぶるものであるということとはよくよく考えて利用しないといけないなというふうに思っております。

人は「情と理」といいまして、理屈だけでも動きません。やはり情の部分が必要です。私はこの「情と理」のバランスというのが大事だと思っておりますし、SNSで訴えるということは大事だと思いますけども、現実の社会というのがありまして、やっぱりまだ朝倉というのは、人と人の結びつきとか出会いとか、そういった接点はある、そういう社会だと思っていますので、そういう人間性といいますか、SNSだけでつながっているとか、そういうのではなくて、人と人との結びつき、徳永議員がおっしゃいましたように、人の温かさがあるまちですので、こういったものは大事にしていきたいなと思っております。だから、人間性って何だろうなというのは、今回、非常に考えさせる議会となりました。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。そうした時代なんですけど、このAI技術やSNSは便利である反面、民主主義を脅かす危険性もあると思っております。

こうした問題点を踏まえ、この朝倉市として、例えば主権者教育、それから情報リテラシー教育、そういったものを進めたほうが将来のためにもいいんじゃないかなと私は思っておりますけれども、本市の見解を求めます。

○議長（小島清人君） 選挙管理委員会事務局長。

○選挙管理委員会事務局長（古賀 博君） SNSとインターネットの関係なんですけども、先ほど市長も申し上げましたけども、人の生活に深く浸透しているという中ですが、情報を正しく読み解く力は大変重要であるというふうに考えております。

現在、主権者教育といたしまして、朝倉地域選挙管理委員会協議会で、市内高校での出前講座を行っております。また、学校への選挙機材の貸出しや明るい選挙啓発ポスターの作品募集を行っております。

今後は、高校での出前講座の中に情報リテラシー向上のための内容を盛り込むほか、また、広報紙やSNS、ホームページ、様々なイベント等のチラシ配布等で、高校生以外の皆さんにも情報リテラシーの向上の啓発を行っていきたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。

それから、学校教育の中でもこういったSNSというのは勉強していかないといけないんじゃないかなと思っておりませんが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 学校におけますSNSの教育についてお答え申し上げます。

令和4年度に教育委員会で、学校やふだんの生活における心構えを示しました「令和の教育十訓」、これを策定いたしました。この中でSNSの正しい使い方を身につけるとともに、学校で子どもたちを指導をしているような状況でございます。

具体的には、情報モラル教育として、情報発信による他人や社会への影響について考えさせる学習、ネットワーク上のルールやマナーを守ることを意味について考えさせる学習、情報には誤ったものや危険なものがあるということを考えさせる活動などを、道徳、技術科をはじめ、関連する教科において教育を行っているという状況でございます。

また、あわせて、PTAの総会時に、保護者に対しまして、SNSなどのルールについて家庭で話し合いを行ってもらうようお願いしている状況でございます。以上です。

○議長（小島清人君） 徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。私もSNSそのものを否定するつもりはありません。むしろ情報発信の大切なツールだと思っております。

しかし、選挙期間中には事実とは異なる情報や一方的な誹謗中傷が広がり、市民の皆さんが混乱する場面もあるかと思います。

そこでお尋ねをいたします。市長は、正しい情報が正しく伝わる環境づくりが大切だと申されましたけれども、そのためには、行政側から積極的に情報を公開することが必要だと思っております。

今後、市の運営において、市民との双方向のコミュニケーションを進める考えはございますでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 再々申し上げますように、行政情報は市民のものだと考えております。そういった意味で、行政情報を市民のほうに提供していくことは大事だと思っておりますし、それが市民と行政との信頼関係を築くものだと考えております。

そういった中で、重ねて申し上げますが、誤情報は玉石混交で正しい情報ばかりでもないというのも事実ですので、そのところにつきましては、やはり市としても情報リテラシーを高めるような、そういった啓発活動が必要だと思っております。

また、今度は緊急性であったりとか、たくさんの方に情報を流すということにおきましては、特に災害時なんかでは迅速な情報共有が必要ですので、そういった意味では有効なツールだと思っておりますので、使い方をよく吟味しまして、行政のツールとして活用していきたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。

市長、それでは、一方的な情報をこちらが送るのではなくして、双方向からというふう
に考えてよろしいでしょうか。市民の皆さんからと市のほうから。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 機能といたしましては、例えばLINEであつたら返事を返したり
とかするのがあると思うんですけど、そのところはなかなか難しいのかなという、や
はり量が多くなりますので、そこは非常に慎重に考えたいと思っております。

ただ、SNSだけで伝わらない部分といいますか、意図がきちっと伝わらない部分もあ
ると思いますが、そのところは、先ほど申し上げましたように、対面で話をする、そう
いったほうが正確な情報が伝わるのではないかと思っておりますので、そのところは慎
重に判断させていただきたいと思っております。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） ありがとうございます。とにかくこのSNSというのは、選挙
のときでも新しいものですので、一瞬にして拡散してしまいますので、考慮してかかって
いけないといけないなど、私は思っております。

次の質問に移らせていただきます。若者流出対策につきまして質問させていただきます
す。

市長は、所信表明の中で、若者流出対策を重要課題として位置づけられました。私も全
く同感でございます。

そこでお尋ねをするんですけれども、朝倉市では、高校または大学を卒業されて、多く
の若者が一旦市外へ流出してしまいます。最大の原因は何だと分析されますか。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（中村守康君） 一昨日の3番議員への答弁と同様の内容になりますが、
まず、住民基本台帳によります人口動態を見てみますと、年代では、20歳から24歳の転出
が転入を大きく上回ってマイナスとなっており、次いで25歳から29歳、15歳から19歳のマ
イナスが多くなっております。これは、高校や大学等を卒業して新たに進学や就職をする
際の転出が主なものと思われれます。

また、朝倉公共職業安定所によります管内の高等学校卒業者の就職状況を見てみますと、
地元への就職率は毎年30%前後でありまして、70%前後が福岡市などの県内や県外へ就職
している状況となっております。

一方で、総合計画策定のための市民アンケートによりますと、朝倉市は「住みやすい」、
「どちらかといえば住みやすい」と感じている市民の方は72.8%と高い割合となっており
ます。また、中学生向けのアンケートにおきましては、「大人になっても朝倉市で住み続
けたいですか」との質問に対しまして、半数を超える53.6%が「住みたい」、「どちらか

といえば住みたい」と回答しております。

以上のことから、全体といたしまして、朝倉市は住みやすいと感じております市民の方が多く、若い方も半数以上が将来も地元に残りたいと思っておりますものの、進学や就職を契機としましての転出が多いことが主な要因であると捉えております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。

そこで質問なんですけども、56.4%の方が住みやすいと思っただけというところですが、市長が考える最優先施策、まずは雇用なのか、住宅問題なのか、それとも子育て環境でしょうか、お願いします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私は、若い人には夢と希望が必要だと考えております。朝倉市に、私は若い人たちに戻って来てもらいたいし、住み続けていただきたいと思っています。そのためには夢と希望が必要です。

行政の施策としては、私は合わせ技を考えておりまして、雇用の創出と、それと子育て支援、この2つを一緒に並行してやっていきたいと思っております。片一方だけでは流出を止めることは難しいというふうに思っております。

この2つをそろえることによって、若い人たちが自分の将来に対して安心感を得られるといいますか、朝倉で住み続けても安心なんだなという、これを得ることができるというふうに考えております。

ですから、将来にわたって選ばれるまちをつくるためには、まずは雇用の創出と子育て支援、この2つを一体としてやっていくというのが私の政策であります。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。それ以外にも、例えば交通の利便性ですとか、あと住環境というのがありますけれども、こういったのはどうですか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） そういったものも大切だと思います。

ただ、よく挨拶のときは3つの大事なものがありますとか言って、なるだけ物を絞ったほうが分かりやすいというところがあると思ひまして、私は、そういった中で一番分かりやすいのは、子育て支援と雇用の創出ということを上げさせていただきたいと思ひます。決して、それをおろそかにするというわけではないんですが、シンボリックな意味でそういうふうに言わせていただいております。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。

私の経験でちょっと質問させてもらっていいですか。私は工務店経営を通じて多くの若

い世代との接点がございます。住宅取得や住環境への不安を抱える方も少なくありません。

そこで質問させていただきたいんですが、空き家活用や住宅取得支援を含めた定住促進策について、市長または本市のお考えをお聞かせください。また、この件で、市長、任期が4年ですよ。4年後、どの指標を改善すれば、どの指標って、住環境もそうですが、先ほど申されたことも含めまして、どの指標が改善すれば成果が出たと判断されるのかも併せてお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（中村守康君） 定住促進につきましては、本市の人口減少に対応するための重要な施策であると認識しております。

本市では、空き家の有効活用と住宅取得支援を組み合わせました総合的な定住促進策を展開しております。これらの施策を通じ、若年層や子育て世代の移住定住を促進いたしまして、地域経済の活性化と人口減少の抑制に取り組んでまいります。

定住促進に関します具体的な施策といたしましては、空き家を貴重な資産と捉えまして、空き家バンク事業や朝倉市住宅リフォーム補助事業により、空き家の有効活用を推進しております。

空き家バンク事業では、空き家の売却または賃貸を希望されている所有者の方と、購入または賃借を希望されている方とをマッチングする仕組みを構築しており、公益財団法人福岡県宅地建物取引業協会と連携いたしまして、物件情報の提供と流通促進を図っております。

朝倉市住宅リフォーム補助事業では、3世代世帯や転入後1年未満の方、あるいは、空き家への転居をする方などを対象といたしまして、市内の事業者に発注して施工いたします住宅リフォームに要する経費の補助を行っております。

また、市内居住予定の方が住宅を新築または購入されます際、あるいは、空き家を含みます中古住宅を購入されます際に補助いたします朝倉市住宅補助金や、そのほかにも住宅取得等資金、利子補給金、朝倉市移住定住奨励金などの支援も行っております。

今後も、空き家の実態把握を進めながら、所有されている方の意向を踏まえ、適切に対応を行ってまいりますとともに、シティプロモーション戦略会議内に新設いたしました移住促進部会におきましても、具体的で効果的な移住定住促進の施策を企画立案いたしまして事業化を図ってまいります。

あわせて、住宅施策だけでなく、働く場所の確保、子育てや教育環境の充実などの総合的な取組の検討も必要であると考えております。

4年後に成果が見られたと判断できる指標といたしましては、例えば、若い世代の転入者数や定住者数の増加が考えられますので、それらの数値が上がるように努力してまいります。以上でございます。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） ありがとうございます。

私も住宅施策だけで若い方が流出が止まるとは思っておりませんが、私は工務店経営を通じまして、多くの若い世代と接しておりますが、朝倉市に住みたい、それから、家を建てたいという思いはあるものの、住宅価格の上昇や将来への不安から決断できない方も多く見受けられます。

そこでお尋ねします。空き家活用と住宅取得支援を組み合わせた、朝倉市独自の定住促進策をさらに強化する考えはございませんでしょうか。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（中村守康君） 繰り返しになりますけれども、本市では、空き家の有効活用と住宅取得支援を組み合わせた総合的な定住促進策を展開しております。

令和7年度には、空き家を含みます中古住宅の購入を朝倉市住宅補助金の補助対象に加える制度拡充を行ったところでございます。また、空き家の活用は今後ますます重要になっていくものであると認識をしております。そのため、本年度は市内全域の空き家実態調査を実施する予定でございまして、空き家バンクや住宅取得支援などにそのデータを活用することで、さらなる充実を図ってまいります。以上でございます。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） ありがとうございます。

空き家の実態調査は、本当に大事なことだと思っております。私も何回も今まで空き家のことについて聞きまして、国のほうが調べたものを基にしての回答が多かったものですから、今回、実態調査をしっかりと指標を上げてやっていただけるということで期待をしております。

次に、働く場所づくりについて伺います。

企業誘致だけではなくリモートワーク、それから企業支援、スタートアップ支援など新しい働き方への対応、前の議員さんたちとダブりますけれども、この回答もお願いいたします。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（二宮正義君） 若者の流出に歯止めをかけ、定住を促進するためには、安心して働ける環境づくりが重要であると考えております。企業誘致による雇用創出に加えまして、リモートワークやスタートアップ事業による企業支援などは、若者の移住や定住につながる可能性があると考えております。

多様な働き方に対応できる環境整備につきまして、国や県の制度も活用しながら、様々な視点から調査研究していきたいと考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。私は、若者流出の原因は必ずしも働く場所がないことだけではないと思っております。

今、インターネット環境さえあれば、東京や福岡の企業に勤めながら、朝倉市で暮らすことも可能な時代になりました。朝倉市として、コワーキングスペースの整備、テレワーク環境の充実、IT人材の育成、若者起業家への支援などに取り組む考えはございませんでしょうか。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（二宮正義君） 近年はインターネット環境の整備によりまして、都市部の企業に属しながら地方で生活します、いわゆるテレワークやリモートワークといった働き方が広がっておりまして、本市としましては、多様な働き方や新しい働き方への対応を研究していきたいと考えております。

また、IT人材の育成や若者起業家への支援につきましても、国や福岡県の中小企業支援や創業支援、事業承継等に関する各種制度が充実していますので、本市のニーズを踏まえ、関係機関とも協力しまして、必要に応じてこうした制度の活用、周知を図りたいと考えております。

さらに、働く場所、拠点の確保や必要な設備につきましては、まずは光回線等の情報通信基盤の整備が整っております朝倉支所、杷木支所が活用可能であるか調査したいと考えております。

今後も、本市におきまして多様な働き方が実現でき、若者が安心して働き、定住しやすい環境づくりに向けて調査研究を進めていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。

そしたら、次の質問をさせていただきたいと思っております。子育て支援、不登校対策について質問させていただきます。

若者定住を進める上で、子育て支援は欠かせません。市長は、女性の就労と子育ての両立支援を掲げられております。

そこでお尋ねをいたします。少子化が進む中での子育て支援は最重要課題です。市長の考えられる重点施策をお聞きしたいと思います。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 少子化が進む中で、子育て支援は本市にとって重要な課題であると認識しております。これまでの議員への市長の答弁と同様のお答えとはなりませんが、重点施策につきましては、就労と子育ての両立ができる環境づくりを中核に捉え、働きながら安心して子育てができる環境の充実に取り組んでいきたいと考えております。

具体的には、子ども医療費の負担軽減につきまして、高校生まで対象を拡大するなど経済的負担軽減と併せて就労継続を支える環境整備を進めてまいります。これまでも保育サービスの充実、経済的負担の軽減、相談支援体制の整備などに取り組んできたところで

すが、今後は、個別施策の積み上げにとどまらず、戦略的な施策を組み合わせる総合的に推進していくことが重要であると考えております。

そのため、子育て世代のニーズや利用実態を丁寧に把握しまして、両立を支える観点から、必要な施策について検討を進めてまいります。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私は、先ほども申し上げましたように、市として子育て支援、力を入れていきますよと、女性の皆様に応援いたしますよということを申し上げていきたいと、これはところどころで、出前市長室であったりとか、そういうふうに言っていきたいというふうに思っております。

一方で、先ほど空の半分は女性であるということを申し上げましたが、その半分は男性なんですね。男性の子育て支援に対する関心を高めることも大事だというふうに考えております。私もそうなんですけれども、子育て支援というのは、頭では大事だと思っておりますけれども、自分には関係ないよねと思っている男性の方が大半じゃないかなというふうに、勝手に想像しております。ですから、子育て支援に対する男性の関心を高めていきたいというふうに考えております。

これは、朝倉市の未来をつくるものなんだと、朝倉市の、ある意味成長戦略なんだということを男性の皆様には訴えていきたいというふうに思っております。そうすることによって、男の人でもそういう言い方をしたらストット腹落ちするんじゃないかなというふうに考えておりますので、女性の方には応援をする、男性の方には成長戦略として子育て支援というのは、朝倉市として必要なですよということを訴えて、関心を高めていきたいと考えております。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。

そこで、私は御提案をさせていただきたいんですが、ゼロ歳から3歳までのおむつ代の支援をやっていただいたらどうかと。子育て世帯の負担軽減として、非常に効果的じゃないかなと、私は思ったんですよ。本市の見解はいかがでしょう。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 乳幼児期におけます子育て世帯の経済的負担は大きいと認識しております。おむつ代の支援についても、その負担軽減の一つの方法であると考えております。

一方で、子育て支援には多様なニーズがありますことから、個別の支援を拡充するだけではなく、働きながら子育てができる環境づくりにどのように寄与するかという視点で、施策全体のバランスを考えることも重要であると認識しております。

今後は、子育て世帯の意見等も丁寧に把握しながら、保育サービスや相談支援、経済的支援を含めた総合的な観点から、効果的な支援の在り方について検討を進めてまいります。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） おむつなんですけれども、私の娘が以前は福岡市に住んでおりまして、おむつが送ってくるんだということを言っておりました。やっぱりすごいなと。残念ながら、朝倉市はその財政の部分ではまだまだ足元にも及ばないような形ですけれども、そういった環境が準備できればいいなというふうに思っております。早くそういうふうになりたいなというふうに考えています。

そういった中で、昨日の夜、徳永議員の質問等を見ておりましたら、そもそもおむつって幾らなんだろうと。1か月幾らなんだろうということを思いまして、例えば、1日おむつって何枚使うんだろうというようなことを、私自身が振り返ったら、何枚使う、新生児の方って何枚使うんだろうなということを、自分はそれが分かっていない。だから、先ほど言いましたように、全然関心がない。ずらっと男性が市役所のほうも並んでおりますけれども、やはりそういった、部長が言いましたように、そういう女性の視点、そういうものはやはり入れていかないと、一月におむつ代がどれくらいかかるかとか、そういうのはやっぱり、このおじさんである私は分かっておりませんので、そういうことはきちっと当事者を交えて政策を練っていきたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうも前向きな回答をありがとうございます。ちょっと続けてお聞きしますね。

このおむつは、子育て世帯に必ず必要なものでございます。ゼロ歳から3歳までの子育て世帯にとっては、毎月大きな負担になっております。私は、おむつ代支援は単なる経済支援ではなくして、朝倉市は子育て世帯を応援するまちだというメッセージもなると思っております。

そこでお尋ねいたします。まずは全額補助ではなくても、例えば、おむつの購入券の配布、または、地域商品券での支援、また、出産祝い金との組合せなど、朝倉市独自の支援策を検討する考えはないでしょうか。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） おむつ代は乳幼児期における継続的な負担となります。その軽減には、安心して子育てができる環境づくりにもつながるものと認識しております。また、支援の方法につきましても、商品券や出産祝い金との組合せなど様々な手法が考えられます。子育て世帯を応援するメッセージとしての側面を持つということも認識しております。

今後は、他自治体の事例や効果等も参考にしながら、子育て世帯の意見を丁寧にお聞きし、限られた財源の中で施策全体のバランスを考え、より効果的な支援の在り方について総合的に研究してまいります。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。若い世代が住み続けるためには、子どもを生み育てやすいまちであることが何よりも大事であります。おむつ代支援は決して大きな金額ではないかもしれませんが、子育て中の御家庭にとっては大きな安心につながります。ぜひ前向きな検討をお願いし、この質問を終わらせていただきます。よろしくお願いします。

次の質問をさせていただきます。今年度から小学校の給食の無償化が始まりましたけれども、中学校給食の無償化への考えはいかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 議員言われますとおり、本年度から小学校におきまして給食費無償化を実施しております。国による給食無償化につきましては、正確には保護者負担の抜本的な負担軽減でございまして、全額を国が負担しているわけではございません。

当市におきましても、国の基準、これは5,200円になりますけれども、それを上回る部分につきましては市が負担し、無償化を行っているという状況でございます。

中学校給食費の無償化につきましては、国の支援が現在のところ未定となっております。国の動きを注視していきたいというふうに考えております。

なお、市では、令和8年度におきまして、中学校給食費月額6,300円になりますけれども、うち月額3,300円を補助しているという状況で、保護者負担の軽減を行っているところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。ということは、御家庭の負担が3,000円ということですのでよろしいですかね。今後とも、中学校のお子さんのほうが食べる量も多かろうと思いますし、無償化のほうに向かって頑張っていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

次の質問なんですが、不登校生徒が増加していると思います。朝倉市のまず現状認識をお聞かせください。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 不登校の状況ですけれども、本市の不登校児童生徒数は、小中学校合計で、令和5年度192名、内訳は小学校63人、中学校129人となっております。令和6年度は139人、内訳は小学校49人、中学校90人でありました。令和7年度でございまして、これはまだ速報値でございまして133人、内訳は小学校45人、中学校88人となっております。

全国におきまして不登校児童生徒が増加している中で、朝倉市においては、令和6年度から2年連続で減少傾向にあるといった状況でございます。以上です。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。私の考えている以上に、多少減っ

ているということで確認が取れました。

この学校以外の居場所づくり、また、フリースクール支援、オンライン学習支援、このあたりはどう考えてありますでしょうか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 市では、特定非営利法人フリースペースよつばさんが活動をされております。令和4年度から6年度まで運営補助金を交付し、支援をしてきましたけれども、令和7年度から不登校の子どもたちが通う市内のフリースクールに対する新たな補助事業を創設としたところでございます。令和8年度におきましては、補助額を増額いたしまして、児童生徒1人当たり月額7,000円の支援を行っているところでございます。

このほか市が運営いたします適応指導教室ステップにおきましても、学習や体験活動、相談事業を行い、子どもたちの居場所の一つとなっている状況でございます。

また、ICT機器を活用したオンライン学習につきましては、現在、タブレットを活用して実施できる環境でございます。コロナ禍には実施した事例もございますが、事例数は限られています。

今後も、本人や保護者の意向を丁寧に聞きながら、効果的な方法を検討していきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。この不登校対策というのは、教育問題だけではなくして家庭への支援や福祉との連携が必要だと思っておりますが、この点はいかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 議員おっしゃいますとおり、家庭支援、福祉との連携が必要だというふうに感じております。

現在、本市の不登校対策におきましては、教育課で生徒指導を担当いたします指導主事、この指導主事を中心に学校支援チームというのを組織し、それに対応を行っております。

学校支援チームは、社会福祉に関する専門的な知識や技術を有するスクールソーシャルワーカー、2名います。そのほか教育相談や家庭訪問を行う登校支援員、これ4名います。また、市の教育支援センターの研究主事が3名、計10名で構成しております。

学校支援チームは、月に1回程度支援チーム会議を開催しまして情報共有を行うほか、必要に応じて、朝倉市のこども家庭センターや児童相談所に協力要請するなど、関係機関と連携しながら対応に当たっているところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。よく頑張っていると思います。ありがとうございます。

今までの質問を、私は、ばらばらと言ったらなんですけど、こう質問させていただきま

したけれども、例えば、ゼロ歳から3歳までのおむつ代支援、それから、就学前の子育て相談支援から小中学校不登校対策、これはまだ聞いていませんが、高校生キャリア教育とか、若者の定住促進等、流れを市のほうで例えばつくって、仮の私が考えた題名ですが、朝倉市子ども未来応援パッケージ、そういったものをつくってやっていくといいんじゃないかと、私は思っているんですよ。若者が希望を持てる朝倉市、子どもが生まれてから若者になるまで応援する朝倉市、そういった大きな看板政策に発展していけるといいなと私は思っておりますけれども、市長はいかがですか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 大変夢のある政策といいますかメッセージだと思っておりますので、それは考えさせていただきたいと思っております。

映画に「ペイ・フォワード」という映画がありまして、一人の少年が善意を先に与えることによって、その善意が広がっていくという映画があるんですけども、非常にラストシーンが涙が出るような映画なんですけど、私は、朝倉市はペイ・フォワードでありたいと思っております。若い人たちにこうやって先に応援をする、善意を届けますよと、応援メッセージを届けますと。それを次の世代にまた先送りしてくださいねと、次の世代に引き継いでいってくださいね、バトンをずっと引き継いでいってくださいねって、そういうまちであってほしいと思っております。

だから、先に若者を応援することによって、先ほど言いましたように、朝倉市の未来への投資になるというふうに考えておりますので、そういうパッケージ、そういったものも十分考えられると思っておりますので、政策会議の中とかで考えていきたいというふうに思っています。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。市長のお気持ちがよく分かりました。

私は、単に、先ほどのおむつ、おむつを配ることが目的で申し上げたものではございません。朝倉市が子育て世代を本気で応援するまちというメッセージを発信することが大切だと思っております。

市長が考える朝倉市独自の子育て応援策とは何かございましたらお願いします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） すみません、突然の質問で。独自のというのは考えていなかったんですけども、しかし、独自のというのがないと、ひょっとしたらこの自治体間競争の厳しい中、選ばれないのかもしれないので、それは考えていきたいと思っております。

前も言いましたように、たくさん朝倉市は、メニューは物すごくあるんです。ですけども、それがいま一つ周知されていないのか、ある意味いろんなのがあって目立たないようなところもありますので、一番になるみたいなのも必要なかなと思っておりますので、

その見せ方も含めて、ちょっと独自のというか、若い人たちの背中を押すインセンティブになるような独自の政策というのは考えていきたいと思っております。すみません、持ち合わせてなくて申し訳ないと思っております。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。前向きのいい答弁をいただきましてありがとうございます。

私も、市長が申した理念、これ、非常に大事だと思っております。しかし、市民の皆さんは、具体的に何が変わるのかと市が、これを期待しておられると思います。市長御自身がこの就任4年間で、これだけは実現したいという子育て支援策があれば、お聞かせいただきたいと思います。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私が目指しておりますのは、やはり経済的な負担を減らしてあげたいと、近隣市町村の分を調査いたしまして、同じだったら選ばれませんので、それよりもちょっと安いと言ったら変なんですけれども、負担が少ないような、そういった政策はやっていきたいというふうに考えております。

あとは、財政の負担の部分とか、そういったのを含めて考えていかないといけませんので、それをやりたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。力強く推進をお願いいたします。

次に、有機農業推進についてお伺いいたします。

朝倉市は農業のまちであります。有機農業をどのように現在位置づけてあるのかを伺いたいと思います。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（二宮正義君） まず、有機農業とは、化学肥料や農薬に頼らず自然の力を生かして持続的に農産物を生産する農業でございます。環境負荷の低減や生もの多様性の保全の観点からも、国が目指す持続可能で環境に優しい農業の方針として策定されました。

みどりの食料システム戦略においては、2050年までに耕作農地に占める有機農業の取組面積割合を25%に拡大するなどの数値目標が設定されております。

朝倉市の農業におきましては、従来行われてきた観光農業という形で、福岡県下でも有数の農業生産高・販売高を誇る農業地域を形成してきました。有機と表示をしてよいかの基準を満たしているかを証明する制度として、有機JAS認証制度がございます。認証取得に当たっては、登録認証機関の厳しい審査があるため、朝倉市におきましては、この認証を取得している農家は1件のみであると認識をしております。

この認証を取らずに有機農業に取り組む農家もいらっしゃいますが、面積の割合として

はごく僅かな割合でございます。

全国の耕地面積に占める有機農業の取組面積も約0.8%程度にとどまっており、国における目標面積割合はあるものの、有機農業は本市の農業を支える多様な農業形態の一つとしての位置づけであると考えております。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。

有機農業は、先ほど申されましたように、全国でも0.7%と非常に少ない。一方、私は20歳から24歳まで博多万能ねぎを作っておりましたが、4日から5日に1回消毒しないといけないですね。なぜかという、虫がちょっとネギの汁を吸いますと、そこが白くなるわけです。そうすると商品価値がぐっと下がります。そうならないためには殺虫剤を振らないといけませんね。5日に1回とか。それから何日かして取るわけなんですけれども、それを繰り返さないといけませんので、作りながら、こういうのを人に食わせていいのかなと考えたこともございました。これは慣行農業ですから、肥料とそういう農薬を使ったやり方です。これは、もう僕は40年前の話ですが、今は随分減っていると思います、これは。

ですけれども、そのとき思ったのは、自分がもう心の底から人のために喜んでいただいている食料を作ることができるという喜びを持ちながら、しかも、自分も売ることができるというのが本来の姿じゃないかなというふうに思いまして、有機農業というのは、やはりどこかでやっていかないといけないというふうに僕は思っているんですよ。

ただ、朝倉市には、有機農業を教える学校があります。これは福岡県内外からたくさんの方がお見えになって、50人ぐらいのクラス、毎年やってあります。

私、自分で思ったんですが、まず、有機農業のやり方が分からない人が当たり前が多いんですよ。なぜかという、学ぶ場所がないから。だけど、朝倉にはあるんですよ。教えてくれる。そして、それを本当は、僕の気持ちですよ、朝倉市が発信していくほうがいいんじゃないかなと思うんですよ。有機農業の里として朝倉が発信すると。

今、0.7%が全国の耕作面積であるとおっしゃいましたが、本当に、これはもう非常に難しい問題だと思っています。だから、政府も30年かけて全体の耕作面積の25%を有機にしようかということでチャレンジしてあるんだろうと思うんですよ。これは、30年間で成功曲線を描きますと、真っすぐいかないですね、斜め上にはいきません。ぐっと弓なりになって上がっていくんですよ。だから、10年間ぐらいは本当に数字として現れてこない。その後にじわっと、ぐぐぐと上がってくるというのがあって、ちょっと、結構時間がかかるんですよ。けども、僕は、そういったのを本当に本気になって取り組んでいるところが0.7%しかないんだったら、逆に、そこに力を入れたら、これはブルーオーシャンですよ。何で、ほかのところはレッドオーシャンなのでいきません。慣行農業ですから。

ですけれども、博多万能ねぎを私、作ったときの、草創期のことも自分は存じているんで

すが、やっぱり何十年もかかるんですね、一つのブランドを作っていくというのは。だから、長い目で見て、せっかくそういった学校がある有機農業、そして、何よりも農業をやる方の年齢がぐんぐん上がっていて、もう10年、15年、20年後には、そうした方はひょっとしたらもう農業やれないですよ。そうしたら農地はどうするんだという話になりますよね。そこに移住定住促進として空き家を活用する。そこに学ぶために若い人が来たら、その人たちをここに定住してもらうような働きをする。そういったことを働きかけをお願いできないかと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（二宮正義君） 有機農業についてもブランド化できる可能性があるのではないかとこの観点から回答させていただきます。

消費者の健康志向や環境意識の高まりから、有機農法で生産されました農産物につきましては、環境に優しい、安心安全などの付加価値をつけることができ、生産農家にとっても有利販売となり、所得の向上を目指すことができる可能性があると考えております。

一方で、有機農法は病気の発生や害虫駆除などの対応に多くの時間と労力を要し、収穫物の一定の品質、規格の維持に相当困難を要すると言われております。そのような状況で有機栽培等の農作物でブランド化を成功させるためには、有機JAS認証に見られるような厳格な栽培基準を満たすことや、品質管理などにより高品質な農産物の生産と安定的な収量の確保が重要です。

その上で、地域特有の条件を生かした差別化を行い、その農産物の生産に係る生産者の思いや地域の歴史などのストーリーを持たせ、ブランドイメージを発信し定着させることで、販路の拡大・確保につなげていくことが必要であると考えております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。ぜひとも、長い目で見ないと、恐らく成長していかないんだろうと思います、有機農業は。私も難しいと思いますが、何が難しいかというと、有機農業のやり方が分からない人が恐らく99人だと思うんです。ですから、それをまずは理解する。例えば、実証実験をするための農場をAとBと作って、こちらは普通の慣行農業、そして、こちらは有機農業、同じものを作ってみる。そういったものを最初まずどこかでやって、それで、これだったらいけるかもしれないというのは、やっぱり実証実験をやっていないと分からないんじゃないかなと、私は思っているんですよ。ぜひとも、今後、前向きに、また質問していきますので、よろしくお願いいたしますと思っております。

次の質問をさせていただきます。現在、ナフサショック、物価高騰対策について伺います。

私は工務店も経営しておりますけれども、まず水道配管に使う塩ビパイプ、壁や床、天

井に入れる断熱材、クロスというのは部屋の壁紙ですね、に使う接着剤、糊ですね、ナフサ由来の商品が品不足であったり、今度高くなります。3割、4割、また塗装シンナーも上がっていきます。値段が高騰しておりまして、工事の遅延、普通だったら大体1か月以内に終わるようなものも、商品が入らないから2か月以上かかりますとか、そういった遅延も起きております。

そこで質問でございます。燃料や原材料価格の上昇が市民生活や中小企業を直撃しております。本市の現状認識をお願いいたします。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（二宮正義君） 御存じのとおり、昨今の原油高は日常生活や企業活動に様々な影響を与えております。燃料価格の高騰は、トラック、バス、タクシーなどの物流輸送業界だけでなく、多岐にわたる事業者や一般消費者にも影響が広がっております。

また、議員の言われますナフサショック、ナフサをはじめとする石油由来製品の供給不足の不安は、建築資材の品切れや品薄状態や住宅機器の納期の遅れなどにつながっていることを承知しております。エネルギーと材料の面から多方面に影響を与えていることを認識しております。

市内の事業者の一部からは、「ユニットバスの納品めどが立たず、工事が遅れている」ですとか、「塗料、シンナーが入手できず、工事が止まっていたが、入手のめどが立ち何か所も同時に仕上げなければならず、しわ寄せが来ている」という話も耳にしておる状況でございます。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。こういった状況でございますけれども、国の施策ももちろんあるのかもしれませんが、市の独自の何らかの施策が必要だと私は思っておりますけれども、こういった点はいかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（二宮正義君） 市では、中小企業向けに、今年令和8年1月の補正予算で、朝倉市エネルギー価格高騰対策事業者支援金を、令和7年1月から12月までのうちの連続する6か月間のエネルギー使用量に応じまして、その上昇単価の2分の1を補助しております。上限30万円で補助をしております。この事業は、現在も受付をしておりまして、今月6月30日までその申請受付期間としております。

予算は補助金額で3,350万円でございまして、現在の実績としましては、申請件数135件、金額で申しますと1,977万1,000円となっております。

さらに、今議会の補正予算におきまして、中小企業を対象とした省エネ設備導入支援補助事業費を計上しております。本事業は、省エネ効果が高い設備の更新に係る費用の一部を補助するものでございまして、業種に応じて、対象設備、補助率及び補助上限額を設定しております。

主な対象設備としましては、エアコンや冷凍冷蔵庫、高性能ボイラーなどとしておりまして、申請受付期間は来月7月から今年の11月までとしておりまして、予算額は補助金額で3,000万円となっております。

このほかに、事業の継続支援としましては、朝倉市中小企業者等事業資金融資制度事業を実施しております。この制度は市内10金融機関と連携いたしまして、資金の使途に応じた低利融資を行っております。1億円を預託しまして、その4倍に当たる4億円を融資総額として設定しておりまして、運転資金や設備資金の円滑な調達を支援することにより、資金繰りの安定化を図るものでございます。

さらに、現在、福岡県の融資制度としまして、緊急経済対策資金制度がございます。原材料価格の高騰等によりまして資金繰りに支障が生じている中小企業を対象に、低利・長期で運転資金、設備資金を融資するものでございます。これらの活用を促していきたいと考えております。

今後も引き続き、国、県の動向を注視しながら、必要な支援策について対応していきたいと考えております。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。今後ともよろしくお願ひしたいと思っております。

次に、開かれた市民派市政についてお伺いさせていただきます。

市長は、開かれた市政を掲げられています。具体的にどのような市政を目指されるのか。出前市長室、地域懇談会、タウンミーティング、こういったものを定期開催する考えはあろうかと思いますが、もうちょっと具体的に話していただいていいですか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 出前市長室というのを公約に上げさせていただいておりますので、市民の皆様のところに出向いていきたいと考えております。7月から、まずはコミュニティを中心に回っていききたいというふうに思っております。ぜひとも、市民の皆様の本音を聞かせていただきたいと思っています。そして、行政を身近に感じていただきたいと考えております。しっかりと皆様の市民の声に耳を傾けてまいります。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。ちょっと似ていますがけれども、市民の声が市政に反映されたと、市民の皆さんが実感できる仕組みづくりが大変重要ではないかなと私は考えておりますけれども、こういった、ちょっともう一度お願いします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 市民の皆様に市政に参加していただきたいと考えております。今までは投票行動で市政に参加をしていただいていたと思うんですけども、一緒に朝倉市を動かしているんだという実感を持っていただきたいと思っております。

そのためには、仕組みをつくることが大事ですので、公約として出前市長室を始めますけれども、情報の共有化を図ることなどをきちっと仕組みを整えまして、市民の皆様との信頼関係をつくっていきたいと考えております。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。市長の4年間、4年後、どのような朝倉市を実現したいかというのをお尋ねします。4年後、市長はどのような朝倉市を実現したいと考えてあるのでしょうか。ちょっと大まかですけれども、お願いします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 4年後にこういうことを言われたいです。私は「朝倉市に住んでいます」と言ったら、「挑戦するまちでしょ、朝倉市って挑戦するまちですよ」と、そういうふうに言われました」という報告を受けたいと思います。

活気のあるまち、若い人たちが挑戦するまち、そういうまちにしたいと思っています。残念ながら、今は外資系マンション問題で話題になったまちでしょうか、そういった話が多いのかなと思いますので、そういった前向きなイメージを持たれるまちにしたいと思っています。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） 最後に、市民の皆さんに最も伝えたいメッセージをここでお願いします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 市民の皆様の声聞くことを出発点といたしまして、私自身が挑戦し続けていきたいと思っています。そして、私は皆様の幸せを追求するということをお約束したいと思っています。朝倉市が進むべき方向をお示ししたいと思っていますので、どうぞ皆様のお寄せいただきまして、市政の発展にお力を貸していただきたいと思っています。

○議長（小島清人君） 6番徳永議員。

○6番（徳永秀俊君） どうもありがとうございます。本日は市長の考えをお聞きすることができました。市民の皆さんが希望を持てる朝倉市づくりのため、議員としても建設的な提案を続けてまいりたいと思っています。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 6番徳永秀俊議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後2時20分に再開いたします。

午後2時9分休憩